

いさいびと  
山口逸彩人

読みたい人の  
読みモノ—  
2016 Vol.0

——— きらり輝く山口の人 ———



YAMAGUCHI ISAIBITO



人は誰でも「きらり」と光るものを持っています。  
その「きらり」を発揮することによって  
人は異彩を放ち、逸材となり、輝きを増していきます。

そのような意味を込めて  
この冊子のタイトルを「逸彩人」と名付けました。

山口の多くの「逸彩人」の  
「きらり」を切り取って、  
これからも皆様にお届けしていきます。

---

## contents

02 山口逸彩人 第1回  
お菓子工房「まあちゃん」野崎勝代  
まあちゃんがもたらしてくれたもの

05 column  
まりりんの美味しいもの日記

06 ギャラリー情報  
Ai's Studioこよみ



お菓子工房「まあちゃん」代表

## 野崎勝代さん

まあちゃんがもたらしてくれたもの

愛する娘の笑顔を胸に

山口県立図書館と一の坂川の間の閑静な住宅街の一角に、野崎勝代さんのお菓子工房「まあちゃん」が、今年の4月20日にオープンした。店名の「まあちゃん」は、6歳で夭折した野崎さんの娘さんの名前で4月20日はまあちゃんの誕生日。亡くなったまあちゃんへの想いを込めてでき上がったお店の二大看板商品は、甘さを抑えた濃厚で大人の味のガトーショコラと、柚子はちみつの甘さが優しいチーズケーキ。どちらもシンプルなケーキだけにごまかしが効かない。

野崎さんが、毎日ごまかさずに丁寧に生み出すお菓子には、我が子に対するような温かい愛情がにじみ出っていて、食べると胃袋とハートをストレートに掴まれてしまう。それも、徐々にお客さんが増えていっている所以だろう。



— 自分のお店を出すのが昔からの夢でしたか。

**野崎** いいえ、ケーキ屋さんを開くなんて思ってもみませんでした。それがいつの間にかそういう話になって、トントン拍子に話が進んで、気がついたらお店ができて上がっていて(笑)。そんな感じで、自分でもびつくりしています。

私は、4人の子どものために自己流でケーキやクッキーを手作りしていました。子どもたちにだけでなく、コーラスの練習がある時や何かの会合がある時など、折に触れてお菓子を作って持参していました。みんなに食べてもらい、「美味しい」って言うてもらうのが嬉しくて。ただ好きで作っていただけだったから、自分のお店を出そうなんて思ったことはありませんでした。

——そんな野崎さんが、なぜかお店を出された。何がきっかけでしたか。

**野崎** 6歳の時に白血病で亡くなった4番目の娘が生き証を、何かの形で残したい、と思うようになったことがきっかけですね。

——詳しくお聞きしても良いですか。

**野崎** 6歳の6月に白血病を発症して、その年の12月に亡くなった娘は、食べることが大好きで、私が作ったお菓子も喜んで食べてくれていました。でも、入院中は思うように食べられず、口ぐせは「おいしいもの、たくさん食べたい！」でした。その願いも叶わず、娘は天国へ旅立ってしまいました。あまりにも急な別れに、私は2年くらい泣いて暮らしました。

でもこれではいけない、他の3人の子どものためにも立ち直らなければ、と思い、近所のお菓子教室に通い始めました。そこではパンを中心に、色々な焼き菓子の基本的なことを教わり、気がついたら10年も通っていました。同時に娘を失った悲しみから立ち直ることができていました。そして、この子がこの世に生を受けた証を何らかの形で残せたらいいな、と漠然と思うようになりました。

——その時に、お店を出そう、という発想が浮かんだのですか。

**野崎** まだその時はそんなことを思ってもいませんでしたが、誰かのためのお菓子作りはずっと続けていたので、周囲がお店を出すことを勧めてくれたのです。この程度の腕でお店が出せる



のかな？と、自分では全く自信がありませんでした。ところが、友だちが背中を押してくれて、私も徐々にその気になつて(笑)。友だちがいなかったら、このお店は実現していませんでした。周りの人たちに支えられて、ここまでくることができました。良い友だちに巡りあえて、感謝しています。

——その気になったら一直線？

**野崎** お店を始めると決めたらすぐ行動に移りました。私は運転免許を持っていないので、自宅から自転車を通える場所を第一条件にお店探しを始めたところ、運良くここが見つかりました。決まれば話は早く、夫も配管工事をしてくれるなど協力的でした。開業資金も今まで貯めてきたお金で充分賄えて、無借金でできたのもありがたかったです。

——名実ともに一國一城の主ですね。

**野崎** はい、そうですね(笑)。厨房が小さいので作れるお菓子も限られています。まあちゃんが好きだったガトーショコラとチーズケーキの2種類を定番にして、後は季節ごとの商品を作っています。きび砂糖、船方農場の牛乳と、できるだけ旬のもの、地元の食材、最低限国産の食材を吟味して使っています。

お店を始める前に、あちこちのケーキ屋さん巡りをしました



が、殆どのお店が賞味期限が長いのにびっくりしました。うちは、添加物は全く使用していないので、新鮮なうちに召し上がっていただきたいですね。

——小さいお子さんも安心して食べられますね。

**野崎** そうなんです。「家族みんなでお菓子を食べてみんな笑顔になって、そこから家族団らんが生まれて欲しいですね。」

——今後の抱負を教えてください。

**野崎** もっともつとケーキ作りの腕を上げていきたいですね。今まで何回も失敗を重ねながら、少しずつ上達してきました。今後も、皆さんに笑顔になっていただけるようなケーキを目指して、試行錯誤を繰り返しながら、作り続けていきたいと思えます。

今こうやって、お店を出して好きなケーキ作りをしてもらえるのも、亡くなった娘の導きかも知れません。あの子が天国から私を見守り、支えてくれていたような気がします。これからあの子の笑顔を胸に、歩き始めたこの道をしっかりと歩んで行きたいと思えます。



周囲を包み込むような柔らかい笑顔の野崎さん。手間を惜しまず、人に尽くすことを厭わない彼女の人柄そのままの、温かくも優しい味のケーキたちと、まあちゃんへの愛があふれている小さな小さなお菓子工房。  
甘い香りを漂わせながら、「まあちゃん」は今日も訪れる人を優しく迎えてくれる。



〒753-0083  
山口県山口市後河原177  
tel/083-924-3007  
🕒 11:00~17:00  
📅 月・火・第2・4日曜日

# まりりんの美味しいもの日記・・・

## らっきょう酢で簡単ピクルス

私は食べるのが大好きだ。

中学生時代、理科の授業中に先生が「人は生きるために食べる。中には、食べるために生きている者もおるが・・・」と言われた。妙に面白みのあるその言葉を、何十年経った今でもはっきり覚えている。授業内容と、なぜ先生がそう言われたのかは、全く覚えていないのに。

で、私は、その食べるために生きている部類の人間なのではないかと、最近思うのだ。小さい頃の私は好き嫌いが激しく、少食で、食べるのが苦痛だった。給食も全部食べられず、みんなは食べ終えているのに、私一人が最後まで半泣きで食べさせられていたことを思い出す。

そんな私だったのだが、今の私の頭の中は、ほぼ食べることで占められている。といっても決してゴージャスで贅沢なメニューを好むわけではなく、私の食事は一汁一菜が基本で、粗食だ。家にある材料でいかに美味しい料理を作るかに心を砕く。美味しくできたご飯の友とほっかほかのご飯があれば、私の機嫌は良い。普段の食べる楽しみがあるからこそ、私は生きているのだ。

さて、そんな食いしん坊の私が、今ハマっているのがピクルス。といっても、好きな野菜をらっきょう酢に漬けるだけ。写真はミニトマトとさつと茹でたパプリカを漬けた



もの。らっきょう酢は万能だということに気づいてからは、旬の野菜をせっせと漬けている。このピクルスがあれば、ご飯は何杯でもいける。細かく刻んでご飯に混ぜて、漬けたお酢を少々入れれば、即席お寿司のでき上がり。さっぱりして美味しい。漬けた後に残ったらっきょう酢は、サラダのドレッシングに使うと良い。今や私の生活には、らっきょう酢は欠かせない存在となっている。



## Ai's Studio イベント情報

・ワークショップ・セミナー・各種イベント情報を紹介します。  
 ・各イベントの日程および内容が予告なく変更する場合があります  
 のでご了承ください。

10月  
神無月

01 sat } 第21回アートふる山口  
 02 sun } 山口県立大学生とコラボお菓子「おおうちてまり」  
 「まあちゃん」にて販売。他手作り作家さん展示販売



26 wed } 「大内塗り・大内人形」を学ぶ  
 | ・展示販売他、ワークショップ開催  
 30 sun } 谷口漆香堂一谷口幡平氏



11月  
霜月

19 sat } …クリエイターズマーケット…Vol. 3  
 20 sun } 「手づくりのある暮らし展」  
 出展参加



12月  
師走

09 fri } shi an プリザーブドフラワー展示販売  
 10 sat }  
 11 sun }



### レンタルギャラリー

各種展示会・研修会・ワークショップetc.いろいろな用途にお使いいただけます。



〒753-0000 山口市後河原177 tel・fax.083-924-3007  
 web <http://ai-s2012.com> e-mail [zxe06461@nifty.com](mailto:zxe06461@nifty.com)



### 手作り本工房

伝えたいことがある、  
 残したいことがある、  
 大切な思いを形にするお手伝い。

「原稿作成からお任せください」



世界で一番小さな出版社

博友舎

〒753-0214  
 山口市大内御堀 4044-8  
 電話 083-927-7922



山口逸彩人 やまぐちいさいびと vol.0

・発行元/博友舎・編集責任者/國安 博之・ライター/真里 凛・デザイナー/石井 章子



山口逸彩人

発行元 | 「山口逸彩人」編集室 | 無料配布